

アンデレ便り

大聖堂耐震診断、改修工事

フィッシャー、カンタベリー大主教によって聖別された神戸聖ミカエル大聖堂は今年で50歳になります。鉄筋コンクリート造りの建物の寿命は法的には60年ですから、あと10年で余命措置あるいは建てかえを視野に何らかの手を打たなければなりません。



大聖堂正面

耐震工事への責任

建てかえの場合、14年前の大震災で全壊した、お隣の栄光教会やカトリック中央教会を例に算定しますと、恐らく、約8-10億円の建築費が求められるでしょう。しかし、今の教区の人的・財政的状況では、これだけの費用捻出は不可能に近いものがあります。少なくとも、阪神大震災の影響で建物がどれだけのダメージを受けているかの診断が必要です。同時に、建築に関わる、神戸教区・ミカエル教会の、次の世代を担う人たちへの財政的負担を軽減する責任が私たちにあり、耐用年数を少なくともあと40年延ばし、大聖堂聖別百年のときに、再度、大聖堂再建計画を検討していただければいいと思うのです。

このような訳で、ミカエル教会教会委員会の了承を得て、耐震診断を実施しました。結論からいいますと、大聖堂天井鉄骨に筋交い補強を施せば、耐震レベルをクリアーできるとの診断でした。もう一つの問題はコンクリート支柱の中中性化進行状況です。調査の結果、その状況は正常で、現時点では危惧する必要はなく、実際に鉄筋が腐食し、膨張を起こした時点で対応すればよいとのことですが、膨張がいつ発生するかは予測できません。従って、中性化を食い止めるため、コンクリートに防水処置を施す必要があります。

約4－5千万円の工事

設計事務所試算によりますと、耐震診断費用及び耐震補強工事の概算は約2千万円、これに加え、大聖堂外壁洗浄、コンクリート防水工事約1千万円、大聖堂屋根ペンキ塗り替え、防音のため大聖堂窓の二重化、納骨堂の増設などが計画に組み込まれます。留意点として、鉄骨補強を実施するため、天井部分のボードを撤去しますが、張り替え時に、音響反射ボードを貼り付け、将来、パイプオルガン設置を想定し、その場所の確保などです。

工事は約2ヶ月で、来年の7月の改修工事開始を目処に、改修計画が立案されます。常置委員会承認の後、ミカエル教会受聖餐者総会の議を経て、11月23日（月）教区会での承認により、計画が実施に移されます。

教区の関係者各位のご支援を宜しくお願いいたします。



天井エル型の部分を撤去



大聖堂外観
コンクリート支柱に防水化を施す



納骨堂。手前の印刷室・倉庫を改造し増設

セクシュアル・ハラスメント対策委員会進捗状況

昨年の教区会で、セクシュアル・ハラスメント対策委員会設置が承認されました。委員会は都合3回開催されましたが、多くの時間は、防止の為にガイドライン作成に費やされ、

1, 2箇所では、委員の共通理解が得られないものもありますが、前回の委員会で、ほぼ、ガイドライン案ができあがりました。最初の文を紹介します。

「教会はセクシュアル・ハラスメントなどとは無縁である、と多くの人が考えているか

もしれません。しかし教会内や、教会外であっても教会の行事などでの、何気ない一言や習慣化した行為が、無意識に相手を傷つけているかもしれません。

2008年度の教区会で教区主教が表明したように、日本聖公会神戸教区は、セクシュアル・ハラスメントを人間の尊厳侵害と捉え、どんな些細な行為であっても許しません。教区のすべての聖職者・信徒および教区・教会に連なるすべての人は、このことを十分に認識していただきたいと思います。私たちはお互いの人格を尊重し合い、健全な礼拝・奉仕・交わりなどのための環境を良くする努めを負っています。」

「セクシュアル・ハラスメントとは、行った者が意識的か無意識かを問わず、相手および第三者が不快と感じる性的な言動（を指します。）、例えば、①容姿および身体上の特徴に関する不適切な発言 ②性的および身体上の事柄に関する不適切な質問……。」

ここで述べられているとおり、キリスト者が等しくイエスに倣う者として立つとき、教会において決して起こるはずはないものの一つがセクシュアル・ハラスメントです。それにも拘わらず、ハラスメントが発生するかについての答えは単純ではありません。しかも、発言する相手によって、それが時として、快と受け止められる場合もあるし、不快きわまりない場合もあります。

相手がどのような立場に置かれ、物事をどのように考えているかを十分に理解しないなかで、自分の立場の優位性を誇示し、嵩に懸かった物言いは、ハラスメントといわれても仕方がないのです。

牧師はもとより、信徒一人一人は、より多くの人たちと親交を深め、相手への理解を拓ける共に、立場や環境、生活習慣が異なる個々人に対して、配慮ある対応が求められます。この姿勢が教会で浸透化することにより、教会の交わりがより豊かにされてくるはずです。

昨年のランベス会議でも取り上げられましたが、旧約聖書が語る、セクシュアル・ハラスメントの悲劇を学ぶ必要があります。



アブサロムの死を嘆くダビデ
(画ギュスターブ・ドレ)

ダビデの子アムノンはタマルという女性を愛しました。しかしその愛は自分の欲望の充足手段としてタマルを利用する性質のものでした。アムノンは甥のヨナダブに相談しますと、ヨナダブは「病気を装って床につきなさい」と助言、アムノンは言われた通りタマルを自分の家に呼び寄せ、関係を迫ります。タマルはそれを拒絶しましたが、カづくタマルを犯したのです。その後のタマルの態度に、アムノンは激しい憎悪をおぼえ、タマルを自分の家から追放してしまいました。

父ダビデは一部始終を聞き激しく怒りました。タマルが一番信頼を置く兄のアブサロムはアムノンの行為についていいとも悪いとも一切語らず沈黙を守りましたが、心の中ではアムノンに対して激